

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年11月20日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 8名	(依頼数) 9名
地域アンケート回答数	8名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3873900470
事業所名 (ユニット名)	グループホーム 虹の森
記入者(管理者) 氏名	辻 勇矢
自己評価作成日	平成30年11月6日

<p>【事業所理念】 ・愛と真心と思いやりの心</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・近くのスーパーへの買い物に行ったり、地域の行事への参加が可能な時には参加や見学を行ったり、ドライブをしたりし気分転換をおこなうような支援に心掛けた。また、地域の施設を使用させてもらったり、地域の保育園やボランティアの方々に訪問してもらい交流を図っている。 ・職員の研修はスタッフ会議や会社の会議で講師を呼んだりして、学習する機会を設けている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所の敷地内には有料老人ホーム、小規模多機能型居宅介護の併設事業所があり、行事毎に合同イベントが賑やかに行われている。新管理者は職員とのコミュニケーションを大切に介護支援専門員と信頼関係を築き、ベテラン職員のサポートを受けながら日々業務に励んでいる。職員は重度化や終末期の状態でも、利用者が不安を感じることなく生活できるよう、スキルアップのための勉強の機会を設けるなど、利用者のことを常に考慮し、さらなるサービスの向上に努めている。</p>
---------------------------------	--	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	普段のかかわりの中の言動を見逃さないように努め、カンファレンス等により職員間で話し合いを持ち共有している。	○		○	日々の関わりの中で、個々の利用者のちょっとした言葉や表情、行動を見逃さないよう把握し、カンファレンス等で話し合い職員間で共有するよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	日頃の状態を把握しながら、出来る限り本人の立場になって何が必要かを検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族も遠方の人が多く、電話やお便りで可能な限り話し合う努力を行っているが、不十分な面もある。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ケアプランの更新時には、アセスメントを行い確認し合うようにしている。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員がかかわる場面場面で、職員のペースにならない様注意を払っている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	利用開始前には、主にご家族からこれまでの暮らし方など聞いているが、こだわりなどは、聞き取りが不十分な面もある。			△	利用者の生活歴や暮らし方等は把握できているが、こだわりや大切にしてきたことなどは聞き取りが不十分な面もあるため、職員間で協力しながら把握するよう努めて欲しい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	アセスメントを通して、現状把握に努めている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々のかかわりの中で観察を行い状態把握し、職員間でも情報の共有を図っている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	バイタルチェックや本人の言動等の状態観察を常に行い、カンファレンスや申し送り等を行う中で、話し合いを行ったりしながら状態把握に努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	毎日の日課票を付け、誰が見てもわかるよう簡単ではあるが把握できるようにしている。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	家族と話し合うこともあるが、職員が主体になる事が多い。			△	家族から得られた情報を基に、利用者が何を求めているかを本人の視点で検討するよう努めて欲しい。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	職員間では、看護、介護、ケアマネ等の職種間での話し合いを行っている。家族とは電話での対応が多く不十分な面もある。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケアプランの更新時には、評価を通して課題を確認するようにしている。				

愛媛県グループホーム虹の森

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	可能な限り、本人の思いに沿った計画にしている。	/	/	/	利用者がより良い暮らしができるよう、家族等関係者と話し合うなど、常に連携を図りながら意見等を反映させ介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	より良い暮らしが出来るための日々のケアについて、職員間はもちろん、家族との連携を図りながら作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	重度になると、ADLの低下もきたし、出来にくい状況になっている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	協力して頂くが、計画に落とし込むまでに至らないケースが多い。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	プラン内容を職員が日々確認できるように工夫したり、ミーティング等で共有するようにしている。	/	/	○	職員は介護計画について、ミーティング等で話し合い理解し共有している。介護計画に沿った支援ができているか、目標チェック表で確認しながらカンファレンスで話し合い、日々の支援につなげている。利用者の言葉や表情、職員の気づきなども経過記録やカンファレンス記録に残している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	出来るだけより具体的に実践できるように取り組み、カンファレンスにて、状況確認を行いながら支援につなげている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日々の状態把握に努め、暮らしの様子を記録に残すようにしている。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	アセスメントの時に記録を行うようにしている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	介護計画の見直しには期間に応じて行っている。	/	/	◎	介護計画は6か月毎に見直している。利用者の状態に変化がない時でも、毎月評価するなど現状把握に努めている。入退院等状態に変化がみられる場合は、利用者や家族、関係者等と話し合い現状に応じた介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月の目標設定を行い、毎月評価し確認を行っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	本人の心身の状態変化に伴い本人、家族や関係者等と話し合い、新たな計画を作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的にミーティングやカンファレンスを行っている。また、状況に合わせて話し合いを持つようにしている。	/	/	○	定期的にカンファレンスや職員会議、ミーティング等を開催し、話し合う機会をつくっている。緊急の場合は、その都度話し合っている。参加できない職員には、会議録を回覧し共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	少人数での開催なので、なるべく思ったことや気付いた事等率直に話せるような雰囲気で行っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	会議を行う日がある程度決めているので、職員全員が意識して参加できている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議録を作成し、参加できなかった職員が必ず確認できるようにしたり、急ぐ場合には、申し送りノートや口頭等でも伝えるようにしている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りノートを活用し、各自が確認印を押すなどの流れを作っている。また、各種会議については、会議得を整備し共有できるようにしている。	/	/	○	申し送りノートにより確実な申し送りをを行い、確認後は押印を忘れないよう努めている。重要事項については、口頭でも伝え申し送りを徹底している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	利用者の様子や家族とのやり取りなど日々、申し送りノートやカルテなどを用い、申し送りの時間を確保しタイムリーに伝達できるようにしている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	散歩や自宅へ帰ったりと可能な事を行っている。	/	/	/	趣味や嗜好に合わせて服装など選んでもらう機会を提供している。利用者が活き活きた表情になるよう、声かけに工夫するなど、雰囲気づくりに努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	服をえらんでもらったり何かしたい事が聞いたりしている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	その都度、何かしたい事が聞いたり話したりしている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	利用者一人ひとりの生活パターンを把握しその人のペースに合わせた支援を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	その方が話やすいような声掛けをしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	その時の状態に応じて、よりよい対応ができるようにしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	職場のミーティング等において学習会をしている。	○	○	○	人権や尊厳について、ミーティング等で話し合う機会をつくり職員全員で共有するようにしている。時には周りにも聞こえる声で話してしまうこともあるため、職員全員がさりげない声かけを徹底するよう努めて欲しい。居室へ入室する際は、必ずノックと声かけをし利用者の許可を得るようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	日頃から意識したり、職員間でも気を付けているが、時々、周りにも聞こえる大ききで話している時がある。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	自分でできる方は出来るだけ自分で行ってもらうようにしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に利用者が居る時にはノックをしたり、掃除などで入る事を伝えている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	学習会をしたり、情報を外に持ち出さないようにしている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	生活していく中で昔ながらの知識を伝えてもらったりしている。	/	/	/	他の利用者の世話をするのが好きな利用者もいるなど、利用者同士良好な関係が築けている。不穏になりそうな時は職員が仲介している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	お互いが助け合っていくことで良好な関係が作れるように努めている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	お世話するのが好きな方にはそういう場面を作ったりしている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルが起きそうな時には、早目に対処するようにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム虹の森

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	入所前に家族等に聞き取りを行ったりしている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	入所前に家族等に聞き取りを行ったりしている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	昔から通っている店や、昔住んでいた家などに行くこともある。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	道路に面しており、玄関先に花を植えたりして訪れやすいように努めている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	外に散歩に出掛けたり、家の方まで行ったり、できる限り希望に添えるように努めている。	○	○	○	散歩や買い物、散髪などに出かけている。重度の利用者も含め、花見と称し遠足に行くなど、定期的に外出できるよう支援に努めている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	現在は行っていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	散歩や外気浴を取り入れている。	/	/	◎	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎	家族が集まる時には外出したり、地域の方が植えている花などを見学しに行っている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	月1回のスタッフ会議や学習会で話し合っている。	/	/	/	野菜の皮むきや食事の後片付け、洗濯物たたみなど、自分でできることに取り組めるよう職員は見守りながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	出来る限りトイレ誘導を行ったり、手伝いをしてもらうようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	自分で行っている時には見守りを行い、可能な限り行ってもらっている。	○	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	一人ひとりできる事ややりたい事を生活の中から見つけ出している。	/	/	/	雑巾を縫うことや洗面台の掃除など、利用者それぞれの得意な面を活かせるよう、役割や出番が持てるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	一人ひとりできる事ややりたい事を生活の中から見つけ出している。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域の行事がある時は可能な時は参加している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	自分で更衣が出来る方は出来る限り自分で行ってもらい、出来ない時には介助を行っている。	/	/	/	整容の乱れがあっても利用者が不快にならないよう、さりげなく整えるなど配慮している。重度の利用者を含め、好みの服装や髪型に整えるなど、その人らしさを保てるよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	自分で更衣が出来る方は出来る限り自分で行ってもらい、出来ない時には介助を行っている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	たくさんの中から選ぶのが難しい時には2、3通りの中から選べるようにしている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節に合わせた服装ができるよう支援している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	食後や入浴、排泄後などには気を付けている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	昔からの店に行ったり出来る方は行っている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	家族等にも昔からの好みを聞いたりしている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	月1回のスタッフ会議や学習会等、随時、話し合っている。	/	/	/	調理の下準備やテーブル拭き、食器の後片付けなどを利用者を手伝ってもらっている。筍や芋など旬の物を取り入れ、昔懐かしい煮物にして提供している。食器は自分の使い慣れた物を使用している。職員は同じテーブルで食事をしながら、必要に応じ声かけや介助をするなど、さりげなくサポートしている。重度の利用者も、食欲をそそるよう献立について説明を優しく行っている。利用者の状況に応じ、職員全員で調理方法や内容を話し合っているほか、契約栄養士に相談しバランスのよい栄養が摂れるよう努めている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともに行っている。	○	食事はほぼ他施設で調理している為、後片付け等、できる事を一緒に行っている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	食事はほぼ他施設で調理している為、後片付け等、できる事を一緒に行っている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入浴時に家族、本人にヒアリングを行ったり生活の中から観察している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	おやつ等で旬の食材を使ったりしている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	自分で食べられる方はもちろん、介助が必要な方も彩りなど気を付けている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	昔から使っている物や持ちやすい物を使っている。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	可能な時は同じテーブルで食べたり、ペースが遅い方には焦らなくてもいい事を声掛けしている。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	今日の献立の話をしたりして、食事をしたくなるような声掛けをしている。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	1日のカロリーは計算されている。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	水分摂取量は必要な方は毎日チェックしている。トロミをつけたり、好みや苦手な物の把握に努めている。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	栄養士が献立を考えている。	/	/	○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	調理道具は消毒したり乾燥機にかけている。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	月1回の会議や随時話し合いをしている。	/	/	/	利用者の口腔内の状況を毎日確認し、清潔が保持できるよう口腔ケアに努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	毎日口腔ケア時にチェックしたり本人に確認したりしている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	必要な方はアドバイスを受けている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	本人が行っている方は磨き残しがないかをチェックし、週1回洗浄剤で洗浄している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	自分で行っている方はしてもらっている。できているかどうかの確認はおこなっている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	その都度、本人や家族には相談し対応している。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	月1回の会議や学習会で話し合っている。	/	/	/	おむつの必要性や適切性について、職員間で話し合い利用者一人ひとりの状態に合ったケアに取り組むなど、トイレでの排泄を基本とした支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	月1回の会議や学習会で話し合っている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	毎日の生活の中で観察している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	出来る限りトイレでの排泄を基本として、話し合いを行い支援している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	随時、話し合いを行ったり、かかりつけ医を相談しながら取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄パターンを探ったり、状態観察を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	月1回の会議やその日の状況をみながら選択している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	月1回の会議やその日の状況をみながら選択している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分摂取量確保の為、本人の好みの物を飲んでもらったり、散歩をしたり取り組んでいる。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	週3回を基本として曜日や時間帯はだいたい決まっている。長さは本人の希望を聞きながら行っている。	◎	/	◎	週3回を基本としているが、利用者の希望があれば毎日でも対応可能で、湯温や浸かる長さ等も利用者の要望を尊重するなど、臨機応変な対応に努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	マンツーマンで入浴してもらい、本人が温まる長さの時間を入浴してもらっている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	自分で洗える所やできる事はしてもらっている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	入浴前に話をしたり気分よく入ってもらえるようにしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタル測定を行い、健康状態の把握に努め、入浴後も水分補給してもらったり様子観察している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	毎日の記録をもとにパターンの把握に努めている。	/	/	/	日中に散歩するなど活動を工夫し、安易に薬剤に頼らない支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中、散歩やレクリエーションを行ったりして、夜、眠れるように努めている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	なるべく使用しないように支援している。かかりつけ医とは随時、相談しながら支援している。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人の訴えをもとに休んでもらったり、自分で判断できない方は、状態をみながら行っている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	手紙を書いたりできる方はいないが、携帯電話を持っており、自分でかけたりしている方がいる。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	家族等に手紙を出す時には、何かを書いてもらったりの声掛けを行っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	適時、電話連絡などを行っている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	本人や家族に知らせている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	電話や面会時などに協力の依頼を行っている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	月1回の会議や学習会で話し合いを行っている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	できる方は行っているが全員ではない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	近くの店では顔を覚えてもらっている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	家族と相談し、可能な限り行っている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	適時行っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	家族や本人同意のもと事務所で管理している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	随時、その時の状態に応じて話し合い対応している。	◎	/	◎	急な通院等の外出など、利用者や家族の要望があれば、柔軟な対応に努めている。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	道路に面している為、花を植えたり、親しみがもてるような雰囲気作りに努めている。	◎	○	◎	玄関周辺には利用者と一緒に鉢植えした花が置かれるなど、親しみやすく落ち着いた雰囲気があり気軽に出入りできる。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	季節ごとに飾りつけをしたり、利用者とともに作品を作ったりしている。	○	◎	◎	壁には季節に合った利用者手作りの作品や、テーブルには季節の花が飾られている。清潔感が保たれるよう毎日の掃除や換気に配慮している。リビングの窓からは山々の紅葉が眺められ、四季折々の景観を楽しむことができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日、掃除や空気の入れ替えを行っている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	毎日、掃除や空気の入れ替えを行ったり、窓から外を眺め季節を感じられるようにしている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ソファで過ごしてもらったり、少し離れて椅子で過ごしてもらえるように努めている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	直接見えないような配置にしている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	自宅で使用していた家具や安心できる物を持参して頂き、心地よく過ごせるようにしている。	◎	/	◎	家族の写真や時計、洋服ラック、寝具など使い慣れたものが持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう配慮されている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	部屋、トイレの場所には目印や表示をする事で混乱しないよう分かりやすくしている。	/	/	○	居室やトイレがわかりやすいよう表示を工夫し、利用者が安心して自立した生活が送れるよう支援している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	部屋、トイレの場所には目印や表示をする事で混乱しないよう分かりやすくしている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	異食行為の方が居る為、あまり手に取れるような所には置いていない。本や文房具は近くに置いている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	日中は出入口や玄関に錠をかけておらず、適時、学習会等でも勉強している。	◎	◎	◎	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は玄関の出入りは自由にできる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	適時、そのような家族とは話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	常に見守りを行えるようにしたり、外出傾向の把握に努め、外出した時には察知できるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入所時や受診時には周知し把握に努めている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日バイタル測定を行い記録している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	気になる事があれば相談を行い、助言を受けるようにしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	面接・入所時に本人・家族と相談し、希望する医療機関に受診できるようにしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	面接・入所時に本人・家族と相談し、希望する医療機関に受診できるようにしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	面接・入所時に話し合いを行い、その後も随時、情報の伝達を行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	普段の生活状況についての情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	電話等で状況把握に努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	日頃の受診時よりコミュニケーションを図っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	近況の把握に努め、除法伝達を行っている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	協力医療機関には必要な時連絡できるようになっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	利用所の状態把握に努めケアマネや協力医療機関に相談している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	今までの薬はもちろん、新しく処方された薬も周知している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬の際は声出し確認を行い、準備の際も数人で確認できるようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	日々の状態を観察し記録を行っているので変化があれば気づけるようにしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	日々の状態を観察し記録を行っているので変化があれば気づけるようにしている。変わった事があれば家族・医師に連絡・相談している。				

愛媛県グループホーム虹の森

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	現時点での状態や今後の状態を加味しながら適時、話し合いを行っている。	/	/	/	利用者や家族の意向を聞き、職員や主治医等関係者で、重度化や終末期についての方針を話し合い共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	職員・本人・家族・かかりつけ医・協力医療機関等で話し合いを行い、情報の共有に努めている。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	◎	看取りの指針がある為、適時学習会を行い、出来るだけの事は出来るようにしている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	その都度、話し合いの場をもうけ、理解してもらうように努めている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	多職種での連携を図り、今何が出来るか、今後何をしていくかの話し合いを行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	その都度、話し合いの場をもうけ、今、どんな支援が必要か検討している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	月1回の会議や学習会で話し合いを行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	月1回の会議や学習会で話し合いを行ったり、必要な時には手順の確認などを行っている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	毎週、保健所より感染症発生動向調査についての連絡をもらっている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	毎週、保健所より感染症発生動向調査についての連絡をもらっている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	出勤時・退勤時・1介助1手洗いを励行している。また、来訪者にはアルコール消毒をしてもらっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	定期的に電話や手紙で連絡を取り関係を築いている。				納涼祭やクリスマス会、遠足など事業所の行事には電話や手紙で案内し参加できる機会をつくっている。「便り」を年2回発行し、定期的に手紙などで利用者の状況を遠方の家族にも知らせている。年度末の新築移設や職員異動等の事業所運営に関する報告ができていないため、今後は適時報告に努めて欲しい。家族の面会時には職員から声かけを行うなど、意見や要望を伝えやすいよう配慮した支援に努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	いつでも訪れやすいような関係を築けるよう、コミュニケーションをとっている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事等がある時には電話や手紙で知らせ、参加してもらうようにしている。	○		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	定期的に電話や手紙で連絡を取り関係を築いている。また、たよりを発行し送付している。	○		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	面会時や連絡を取った時には、何か聞きたいことはないか確認している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	これまでの関係の把握に努め、定期的に電話や手紙で連絡を取り関係を築いている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	大きく変わる時には連絡・報告している。	×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	年に数回大きな行事を行っているが、度々は行ってはいない。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	その都度、連絡・報告をし話し合いを行っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	面会時や連絡を取った時には、何か聞きたいことはないか確認している。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	その都度説明を行い、納得してもらっている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	その都度説明を行い、納得してもらっている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	その都度説明を行い、同意を得ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	設立より年数が経っている為、当時の状況は把握できていない。	/	○	/	地域住民とは散歩などの外出時に、挨拶を交わしつつも気軽に会話している。町主催の敬老会等の地域行事には、積極的に参加し住民と交流したり行事運営の連携を図るなど、地域とは深いつながりができている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	挨拶は行っている。地域行事には可能な限り参加している。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	運営推進会議で働きかけは行っているが、増えているかどうかは分からない。	/	/	/	
		d	地域の人気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	以前は知人がおり、立ち寄りしていたが、現在、立ち寄りほとんどない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	以前は知人がおり、立ち寄りしていたが、現在、立ち寄りほとんどない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	運営推進会議で働きかけは行ったり、行事にはボランティアを頼んだりしている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	近くのスーパー等を活用している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	行事では近隣の施設を貸してもらったり、理容店等協力を得ている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	毎回、利用者の家族や地域の人等の参加がある。	○	/	○	運営推進会議には、利用者や家族、地域住民の参加を得ている。会議では外部評価の内容や取り組み状況の報告をしたり、参加者から出されたアドバイスも取り入れるなど、運営に活かせるよう努めている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	会議時には取り組みの報告等をしている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	色々な意見をもとに、今までの取り組みや今後の取り組みを話し合っている。	/	◎	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	参加メンバーはだいたい同じだが、日程や時間帯は配慮している。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	会議録は送付している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	「愛と真心と思いやりの心」のもと、利用者が安心して過ごせるよう職員全員で介護支援を行っている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	フロアの見える所に表示しているが、伝えてはいない。	×	×		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	可能な限り法人内外の研修を受ける機会を作ったりしている。				職員の意見等は管理者を通じて代表者に伝達される仕組みとなっている。代表者は事業所任せとしている感があるため、時には事業所を訪れ職員と直接交流するなど、現場の状況を把握し、職員のストレス軽減等職場環境の改善に積極的に取り組むことが望まれる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	月1回のスタッフ会議や学習会を通じ取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	行っているとは思われるが、把握できてはいない。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域の会議に参加したり、会社の会議の講師を依頼したりしている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	特に工夫といった事はしていない。		○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	月1回のスタッフ会議や学習会で勉強している。				不適切なケアについて、毎月スタッフ会議等で勉強会を実施するなど、職員は対応方法や手順等について理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	随時、話し合ったりしている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	月1回のスタッフ会議や学習会で勉強している。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	随時、話し合いを行っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	月1回のスタッフ会議や学習会で勉強している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	月1回の会議で話し合ったり、現状の確認を行っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	その都度話し合いを行い、理解してもらえるように努めている。				

愛媛県グループホーム虹の森

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	月1回のスタッフ会議や学習会で勉強している。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	そのような相談を受けた時には話し合いの場を設け、対応している。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	日頃から連絡を取り合い、そのような時には協力できるような体制を築いている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルは作成していないが、月1回のスタッフ会議や学習会で勉強している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	月1回のスタッフ会議や学習会で勉強している。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書やヒヤリハットにまとめ、会議や随時検討を行い、再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日々の生活の中でのリスク等は随時話し合いを行い予防に努めている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルは作成しておらず、苦情が出た時には随時職員間で話し合い対応している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	マニュアルは作成しておらず、苦情が出た時には随時職員間で話し合い対応している。必要な時には関係機関と相談を行っている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情が出た時には随時職員間で話し合いを行い、速やかに経過報告するように努めている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	相談窓口は設置しており、随時、相談できるようにしている。	/	/	○	利用者からは日々の生活の中で、家族からは面会や手紙などを通じて意見や要望を聞くよう努めている。管理者は自ら現場に入っており、日頃から職員と気軽に話し合える関係が築けており、職員の意見等の把握に努めている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	相談窓口は設置しており、随時、相談できるようにしている。	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	役場との連携を図り、協力を得ている事を伝えている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	可能な時は行っている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	日頃から話し合いを行い、協力機関と相談しながら支援するよう努めている。	/	/	○	

愛媛県グループホーム虹の森

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年1回は自己評価できるようにしている。	/	/	/	評価結果等について報告しているが、取り組みのモニターまでには至っていないため、今後の取り組みに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	スタッフ会議や適時、話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	可能な限り取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	情報の開示は行っているが、モニターはしていない。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	目標達成に向け取り組んでいるが、成果の確認はしていない。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	年に数回、避難訓練を行い、火災や土砂災害等の対応の訓練を行っている。だが一つ一つにはマニュアルは作成していない。	/	/	/	緊急災害訓練は地域とも連携し併設の事業所と合同で行っているが、家族の参加がないため、今後は家族にも参加してもらうなど、協力・支援体制を強化し、利用者の安全確保に万全を期して欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	夜間や昼間等の訓練を行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	自施設で保管している物は点検を行い、会社で管理している物は会社が点検している。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進会議などで話し合いを行ったり、協力機関とも連絡を取っている。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域のネットワーク会議に参加し話し合いを行ったり、学習会を行っている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	実践報告等、機会があったり、要請があれば行っている。	/	/	/	町保健センターネットワークづくりに参加するなど、相談支援体制は整っているが、地域の相談に応じるまでには至っていないため、事業所のPR等に努めることが望まれる。地域関係機関との連携を活かし、地域活動を協働で行うなど、今後の取り組みに期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	そのような機会があれば相談支援を行っている。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	特に行っていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	以前は行っていたが、現在は要望がない為、行っていない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	関係機関との連携は密に行っているが、地域活動の参加には至っていない。	/	/	△	